



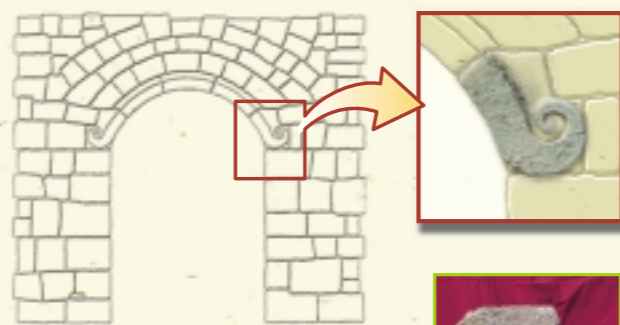
勝連城

勝連城は、琉球王国が安定していく過程で、国王に最後まで抵抗した有力按司、阿麻和利が住んでいた城です。阿麻和利は、国王の重臣で中城に住じた護佐丸を1458年に滅ぼし、さらに王権奪取をめざして国王の居城である首里城を攻めたが、大敗して滅びました。阿麻和利が滅ぼされたことにより、首里城を中心とする中山の王権はいちだんと安定しました。

勝連城における発掘調査では、中国製や日本製の陶磁器類が多量に出土しており、阿麻和利をはじめとする城主が海外との交易を活発に行っていたことが推測されます。これらの出土品から、勝連城は12〜13世紀に築城されたものと考えられます。

口碑伝承では、初代城主は英祖王系 大成王の五男であったといわれています。その後勝連按司は4代続き、6代目に世継ぎができないことから養子縁組により伊波グスクの伊波按司の六男が迎えられています。続く7、8代目は交代の理由は判りませんが浜川按司になっています。そして9

勝連城跡の特徴



一の曲輪城門付近から唐草模様の浮き彫りのついたアーチ石の一部が発見されており、装飾を施した豪壮なアーチ門であった可能性があります。



INFORMATION

交通アクセス

沖縄バス・琉球バス、屋慶名線(系統番号27・80番)
那覇より所要時間約1時間30分です。
西原バス停下車、徒歩10分です。



勝連城跡
国指定史跡指定 1972年5月15日
世界遺産登録 2000年12月2日
所在地 勝連町字南風原3759番地外
指定面積 131,774.68㎡

沖縄県勝連町教育委員会
〒904-2392 沖縄県勝連町字平安名3047
TEL. (098) 978-2227

このリーフレットは、対米請求権事業により作成しました。

きむたかの文化財シリーズ 1



勝連城跡

世界遺産登録
国指定史跡



若き日の阿麻和利像



沖縄県勝連町教育委員会

時は十五世紀、
混乱の時代を駆け抜けた
一人の英雄がいた。
あまわり
その名は阿麻和利。

代目は茂知附按司となります。しかしこの按司は圧政を敷き酒に溺れたことから、人々の信頼の厚い阿麻和利によって倒されます。彼が10代目の城主となつて、勝連はますます栄えることとなったとあります。

阿麻和利については諸説ありますが、一説によると北谷間切屋良(嘉手納町)で生まれ、小さい頃は身体が弱く、山に捨てられたといわれています。ひとり生きていく中で、智恵と力をつけ、勝連に流れ着いたときには、村人たちに漁網をつくったりして、暮られるようになりました。やがて茂知附按司に取り立てられ、計略を用いて、勝連の按司の座を奪い取ったといわれています。

若くして勝連の按司となった阿麻和利は、人々から慕われ、海外貿易によつてますます力を付けました。時の琉球国王尚泰久は、阿麻和利に脅威を持ち、自分の娘百十踏揚を嫁がせます。